
ホットニュース(平成17年度／第85号)

●今月の業界ホットニュース／桜並木の街づくり

今年の桜もほぼ散ってしまった。弊社の近くを流れる目黒川沿いは、中目黒駅から池尻大橋駅間の約1.5kmに亘る桜並木で、その数およそ400本位であろう。シーズンの人出は年々増えているように感じられる。

例年4月の第一日曜日は、沿道を自動車通行禁止にして桜祭りなるイベントが行われている。ところが、この日が桜の満開と重なることが減多にない。今年はまだほとんど咲いていなかったし、去年は既に散っていた。

一時的な交通規制やイベントの準備が手続き的に大変で、スケジュール通りこなされることが解らないでもないが、こうもずれると何のためにやっているのか、いかにもお役所的な感じがする。

桜のおかげでこの通りが有名になったのか、また代官山から近いこともあって、近年、沿道にはブティックやこぎれいなレストランが次々に開店して、街の様子がすっかり変わり、若者で賑わう街になりつつある。桜並木が演出した街づくりの例という気がしている。

そうだとすると、桜に合わせた柔軟な交通規制ができないものだろうか。4～5日はやって欲しい位の人出が続いていた。街を楽しむための道路の利用の仕方や、柔軟な交通規制の方策を考えていくべきだと思っている。

(代表取締役 堀田 紘之)

●環境的に持続可能な交通「EST」の実現に向けて

本年2月に発効した京都議定書では、わが国について温室効果ガスの6%削減が法的拘束力のある約束として定められている。地球温暖化対策推進法では京都議定書発効の際に「京都議定書目標達成計画」を定めるととされるが、3月29日に案がとりまとめられた。この案では、従来の単体対策や事業者・施設単位といった「個」の対策に加え、省CO2型地域構造や社会経済システムといった「面」・「ネットワーク」対策の必要性が打ち出され、省CO2型交通体系構築が核的施策と位置づけられた。

このうち旅客部門では、CO2排出量増加の一因となっている自家用乗用車への過度の依存を抑制し、環境的に持続可能な交通(EST: Environmentally Sustainable Transport)を実現するため、ESTの推進を目指す先導的な地域を募集し、公共交通機関の利用促進、交通流の円滑化対策、低公害車の導入促進、普及啓発等の分野における支援策を集中して講じることとなっている。こうした地域での検討が全国に展開し、実効的な公共交通利用促進策となるよう、取り組みを強めたいと考えている。

(第一計画部 矢島 充郎)

●バンコクの地下鉄から

昨年バンコクを訪れた際に、開通したばかりの地下鉄に乗ってきました。気付いたことは、地下の駅構内が大変に広く開放感があったこと、意外と利用客が少なかったこと、切符の代わりにICチップが埋め込まれた「トークン(樹脂製でコイン状のもの)」を使った自動改札であったこと、プラットホームと線路の間にガラス張りの壁と扉があったこと、地下鉄建設に資金援助した日本への感謝状が駅構内に掲げられていたこと、などでしたが、何といても駅のすぐ脇にパーク＆ライドの駐車場が整備されていたことが驚きでした。

バンコクほどの大都市であれば、もっと早くから地下鉄ほどの輸送力が

整備されていて然るべきだと思っていましたが、生活の中に新たな交通機関が加わるというのは期待も大きいかと思います。

話は変わりますが、先日タイの映画を見る機会がありました。地下鉄工事をしていたらガルーダという神鳥の卵が出てきたというストーリーで、地下を掘ったら何か出てきたという純粋なゾクゾク感を映画にしたものです。地下鉄に慣れてしまった日本人ではこうしたストーリーを映画にしようとは思わないでしょうが、当地からしてみれば時事ネタをうまく使ったものです。形は違えど「黒部の太陽」も国家プロジェクトを映画にしたものだったはず。映画に残るような国家プロジェクトを近年みかけませんが、これも時代の趨勢でしょうか。

(第二計画部 黒坂 剛)

アルメックホットニュース(平成17年4月15日発行)

////////////////////